



2025年12月

アラウコ社日本代理店  
サカキバラコーポレーション

### チリラジアータパインの現状と今後の見通し

#### 1. チリ社会

11月16日に実施された大統領選挙は、ジャネット・ハラ（左派）が26%、ホセ・アントニオ・カスト（右派）が24%で過半数の投票に届かず、12月14日に決戦投票が行われます。ジャネット・ハラは現政権を継承してトランプ大統領とは距離を置く政策です。ホセ・アントニオ・カストは不法移民対策などトランプ大統領に近い政策になります。現地予想ではホセ・アントニオ・カストが優位に選挙戦を進めていますが、中道右派、中道左派の候補は既に敗れており、どちらの候補が大統領になっても、チリ社会が分裂になる可能性が高くなりました。

銅価格は引き続き4.8-4.9ドル台で高値を維持しており、チリ政府の財源は安定しています。為替はドルに対してペソ安が進み960-970-ペソで推移しています。

経済成長率は年率1.3%で失業率も8.6%で景気は低迷しています。

物価上昇率は3.3%で落ち着いています。チリは南米では治安が良い国でしたが、コロナ後は不法移民の犯罪が急増しており、特にベネズエラからの移民が大きな社会問題になっています。

#### 2. 世界市況

今年のアジア向けチリ製材輸出数量（集成材を除く）は約1,350,000m<sup>3</sup>になりそうです。昨年より約5%減少する見込みです。

2021年と比較して、日本向けは15%から11%へ減少しています。中国は27%から15%へ最大の減少になっています。韓国は23%から28%へ、中近東は20%から22%へ増加しています。来年のグリーン製材（心材）の世界市場は中近東市場と韓国市場が今年同様に主要な販売先で日本と競合をすることになります。

欧州、バルト三国からのホワイトウッド下級材の供給はタイトな市況が続いており、チリ製材が占める梱包材、パレット材、土木材の需要は強い市況が続いています。

### 3. 日本市場

#### a) バルク配船スケジュール

2025年10月配船（4番船）は川崎で11月25日から荷あくが始まりました。12月前半で名古屋、大阪の荷あくが終了する予定です。

12月バルク配船（5番船）は現地を12月下旬までに出港して、日本各港へは来年1月下旬から2月中旬まで寄港する予定になりました。

2026年1番船は現地3月積みとなり、日本入港は4月下旬からになる予定です。

来年は今年同様に年間5本のバルク船を約70日間隔で配船するスケジュールです。

バルク船の運賃が毎船値上がりをしており、今後の船社の動向によっては来年の1番船以降より製材価格の値上げを検討しなければなりません。

#### b) 梱包市況

9月以降の梱包市場は緩やかな回復傾向が続いていましたが、11月は各地の販売が前月より減少しました。12月は年末に向けて販売が回復する見込みです。

中国向け梱包需要は引き続き弱いですが、東南アジア向けの需要は業種により続いております。高市政権の補正予算により今後の景気回復も期待されており、来年1月以降の市況にプラスになるかもしれません。

バルク配船の間隔が3番船と4番船で約3ヶ月近くになり、各社の港頭在庫は低い水準が続いており、割板、割角の一部サイズに在庫不足が出ています。

為替は150-155円のレンジから155-160円に推移しており、12月に日銀の利上げ、米国FRBの利下げが決まれば、為替相場は円安から円高へ進む可能性があります。

しかし今後の金融政策や日本の景気動向によっては、為替が現行から更に円安に進む可能性もあり、各社の輸入コストが上がる心配もあります。

住宅向け建築材市場は、欧州材のユーロ高が進み、国産材との価格差が更に拡大しています。今年の新設住宅着工数は70万戸を割る可能性がありますが、建築材を輸入材から国産材へ転換する住宅メーカーや工務店が全国で増えています。

パレット材や梱包材市場に国産材を挽く専門の大型製材工場は少なく、建築材と併用して製材をしている製材工場が多いので納期が長い傾向になっています。

年末に向けて既に納期が1ヶ月以上の国産材製材工場も多く出ています。

来年もチリ材、NZ材のラジアータパインと国産材の共存が市場では続きそうです。

以上